

胃がん検診における発見がんの分析

○池田 晶子 具志 秀和 桐谷 綾 内村 康子 北川 晋二 瓦林 達比古
公益財団法人 福岡県すこやか健康事業団

1. はじめに

当事業団は福岡県内の巡回検診を中心に年間約8万人の胃がんX線検診を実施し、発見されるがんは年間100例前後である。過去7年間の胃がんX線検診実施状況および発見がんを分析し、今後の課題を検討する。

2. 対象・方法

平成21年度から平成27年度の7年間の当事業団の胃がん検診状況と、発見された胃がん641例(平均年齢67.4±8.8歳)について検討した。

3. 結果

1) 受診状況

総受診者数は、のべ576,230人(男性279,489人、女性296,741人、平均年齢56.3±12.6歳)で要精検率6.6%、精検受診率75.9%、がん発見率0.11%、早期がん率71.3%、陽性反応的中度1.68%であった。なお、深達度M,SMを早期がんとして定義した。地域職域別にみると、地域と職域はそれぞれ受診者数345,123人、231,107人、要精検率は6.8%と6.3%、精検受診率は88.7%と55.3%、がん発見率は0.16%と0.04%、陽性反応的中度は2.36%と0.59%であった(表1)。

年代別では60歳代が最も多く受診し、がん発見率は年齢とともに上昇した(図1、図2)。

表1 平成21年度から平成27年度の胃がん検診実施状況

	受診者数(人)	要精検者数(人)	要精検率(%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がんであった者(人)	がん発見率(%)	早期がん数(人)	早期がん率(%)	陽性反応的中度(%)
H21	83,979	5,753	6.9	4,294	74.6	105	0.13	70	66.7	1.83
H22	82,005	6,039	7.4	4,611	76.4	94	0.11	63	67.0	1.56
H23	80,165	5,864	7.3	4,429	75.5	94	0.12	72	76.6	1.60
H24	81,511	5,531	6.8	4,286	77.5	98	0.12	65	66.3	1.77
H25	84,471	5,303	6.3	4,035	76.1	100	0.12	73	73.0	1.89
H26	82,320	5,015	6.1	3,719	74.2	59	0.07	44	74.6	1.18
H27	81,779	4,635	5.7	3,562	76.9	91	0.11	70	76.9	1.96
計	576,230	38,140	6.6	28,936	75.9	641	0.11	457	71.3	1.68
地域	345,123	23,487	6.8	20,832	88.7	554	0.16	397	71.7	2.36
職域	231,107	14,653	6.3	8,104	55.3	87	0.04	60	69.0	0.59

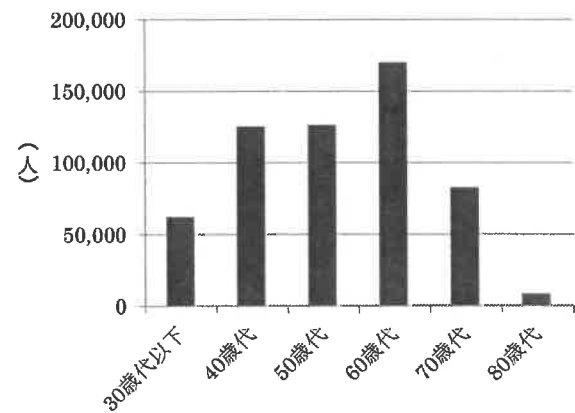


図1. 年代別受診者数

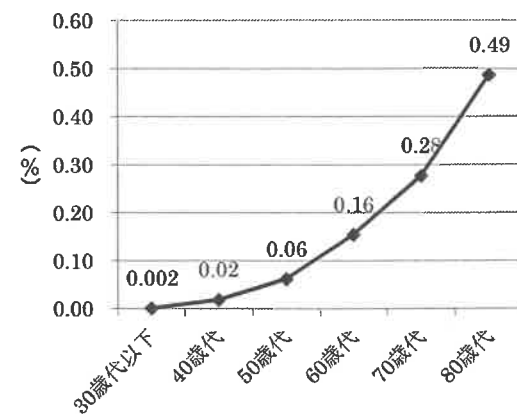


図2. 年代別がん発見率

2) 発見がん状況

①性・年代別(図3)

男性435例、女性206例で男性が多く、男女とも60歳代が最も多く、次いで70歳代が多い。

②深達度(図4)

M302例47.1%、SM155例24.2%であり、合わせて約7割が早期であった。

③治療方法(図5)

治療方法では、内視鏡的治療198例30.9%、腹腔鏡下手術213例33.2%、通常の開腹手術が188例29.3%であった。

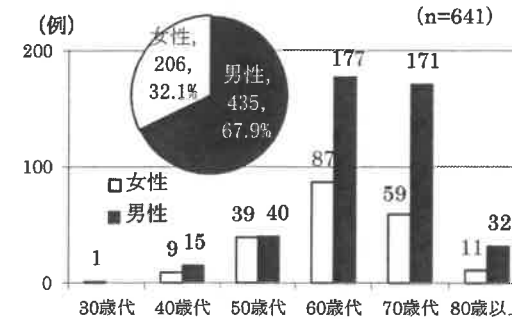


図3. 性・年代別

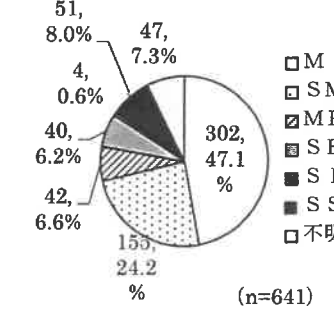


図4. 深達度

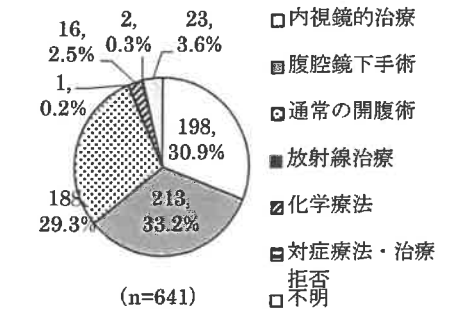


図5. 治療方法

④受診歴別・年代別進行度割合(図6・7)

当事業団での受診歴が過去3年以内にあるものを『非初回』とし、それ以外を『初回』とした場合の早期がんの割合はそれぞれ79.0%、69.6%で非初回受診者の方が高かった(進行度不明35例を除く)。年代別では若い年代に早期がん率が低い傾向にある。

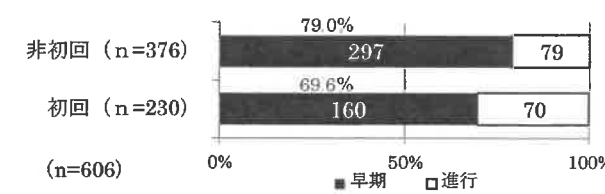


図6. 受診歴別進行度割合

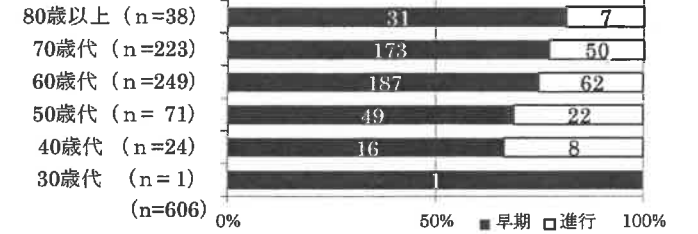


図7. 年代別進行度割合

⑤自覚症状の有無(図8)

641例中99例15.4%に胃痛等の症状がみられた。進行がんでも症状有の割合は20.8%にとどまる。

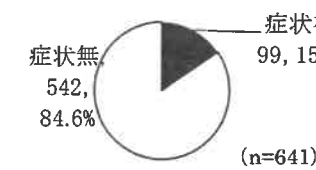


図8. 自覚症状の有無

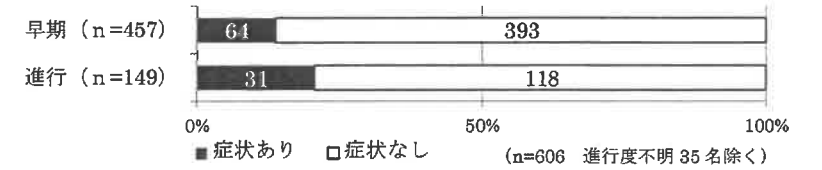


図9. 進行度別の自覚症状の有無

4. まとめ

当事業団の胃がん検診の成績で地域においては、厚生労働省が平成20年度に作成した市町村事業における評価指標(許容値:要精検率11%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.11%以上、陽性反応的中度1.0%以上)を全て満たしていた。しかし、職域の精検受診率は約55%であり、特に若い年代では早期がん率が低い傾向がみられているため、精検受診率の向上が今後の課題である。また、非初回受診者で定期的に検診を受けていると思われる受診者ほど早期がん率は高い傾向にあり、定期的な検診の重要性を訴えていきたい。自覚症状がないから検診を受けない、精密検査を受けないといったことがよく聞かれるが、進行がんであっても8割は自覚症状がないということを特に啓発していく必要がある。